秋田市文化財保存活用地域計画（原案）に対する意見一覧

No.	意　見	市の考え方・対応
1	「原案」を拝見しました。膨大な量のため、すべてを読み込むことはできませんでしたが、主に「文化資産を守る」(基本方針４　P92)について意見を述べさせてください。 「文化遺産(文化財)」とは一般的に「人間の文化によって残された有形・無形のもののうち、価値（文化的価値）が認められたもの」とされています。私はより広くとらえて「庶民の文化を伝える『地域文化資源』もまた、大切な文化遺産」と考えています。 庶民の暮らしの中で、実際に使われ、愛されてきたモノ。しかし、生活の変化とともに中には「無用、不要」として捨て去られてきたモノも数多くあります。そうした「捨て去られてきたモノ」にも、私たち秋田市民の文化を伝える重要な資源、つまり「生活文化遺産(文化財)」として光を当てていただきたいと思います。 計画原案にうたわれる「文化遺産を収集・保存・活用する拠点といえる文化施設の整備や文化遺産間のネットワーク強化等の環境づくり」(P92)が最も大切な課題の一つだと考えます。まったく同感です。原案にすでに記述されている「今後の指針」と内容が重なる部分もあるかもしれませんが、その点はご容赦ください。 以下、具体的な提言です。 【文化遺産施設の整備】 庶民文化を伝える「生活文化遺産」をコレクションとして、さらに充実させていくことは、秋田市の歴史や文化を新たな角度から発信する機会となる。各地域の既存施設(史料館、博物館、美術館、公民館、図書館、児童館)のほか、さらには民間の空き店舗なども含めて新たな文化ベースとして整備し直し、各施設のネットワークを強化。情報交換を密にしながら、「同種のモノを集める」無駄を省き、整理・分類し、それぞれが異なった個性(ジャンル)を持つ展示・保管施設となってほしい。	ご意見にありました提言に関する本市の取り組みは次のとおりです。 「文化遺産施設の整備」 「民具コレクションの体験型展示」 民俗資料を文化財指定することで保護・活用を図るとともに、未指定の資料についても、油谷これくしょん・旧河辺農林漁業資料館・旧雄和ふるさとセンターの所蔵品を中心市街地等で展示公開しており、今後も活用に努めてまいります。 「教育施設との連携強化」 市内に所在する県立・市立の文化施設間でネットワークを構築し連携事業を推進しているほか、高等教育機関等との共同により、地蔵田遺跡をはじめとした文化遺産の活用に取り組んでおり、今後も連携に努めてまいります。 「デジタルアーカイブの構築」 千秋美術館の収蔵品データベース公開などに取り組んでおり、今後もデジタル技術を活用した情報発信に努めてまいります。 「地域住民との共創プロジェクト」 学校教育や社会教育と連携し学習講座等を開催しているほか、文化遺産の調査成果の地域への報告などを通して地域の魅力を発信しており、今後も地域が一体となって文化遺産を知り、守っていくという機運の醸成に努めてまいります。 「文化遺産と観光の融合」 旧松倉家住宅を拠点として羽州街道を主題とした事業を展開するなど歴史・文化をいかしたまちづくりを推進しているほか、日本遺産である北前船を通した文化遺産の魅力発信を進めており、今後も観光分野との連携を通して活用に努めてまいります。 本計画を作成・実施することで、従来の考え方にとらわれない保存・活用

	【民具コレクションの体験型展示】 例えば「生活文化遺産」の一つとされる民具は、「触れる」ことで初めて理解できる文化遺産である。インタラクティブな展示方法を取り入れ、来場者が「ショーケースの陳列物」を見るだけではなく、実際に手に取って触れられる体験型の展示を行うことで、文化遺産への関心を高める。特に農林業県である秋田にとって、古代から近現代にわたる「秋田の民具コレクション」こそ、庶民の暮らしや文化を伝える貴重なものと考える。 【教育施設との連携強化】 秋田大や県立大、国際教養大、公立美大など地元の大学や博物館・美術館と連携し、学生を巻き込んで「生活文化遺産」コレクションを教育教材として活用するプログラムを開発する。これにより、学生や研究者によるそれぞれの研究が促進されるだけでなく、豊かな学習資源として期待できる。 【デジタルアーカイブの構築】 あらたな「生活文化遺産」コレクションは物理的な空間だけではなく、デジタル化を進めることで全世界に秋田市の文化や歴史を紹介できる。高精細な画像や3Dスキャン技術、さらにはaiを活用してデジタルアーカイブを構築し、アクセシビリティの向上と情報の永続的保存を図る。 【地域住民との共創プロジェクト】 生活文化遺産の保存と活用は、住民の文化力を結集する絶好の機会ととらえたい。地域住民自らが管理・運営する形での参画を促進するために、ワークショップや学校教育、公民館での講座などを積極的に実施し、全世代にわたる関心と理解を深める。従来の「諮問委員会」という形態ではなく、今まで以上によりフランクでオープンなものにし、特に文化を継ぐべく若い世代が多くかかわるものにしてほしい。 【文化遺産と観光の融合】 「生活文化遺産」コレクションと地域	の取り組み、教育・観光・まちづくり分野との連携強化等を通じて、地域総がかりで文化遺産を伝え、守り、支え、いかしていく体制の構築を図り、文化遺産の存続につなげたいと考えております。いただいたご意見については、上記の既存事業を継続させながら、原案に記載した基本理念「秋田市を知る、誇りを持つ、引き継ぐ～足もとの歴史文化を次世代へ～」に基づき、基本方針に沿った各種取り組みを進める中で、それらが更に充実したものになるよう、参考にしてまいります。	

	の有形無形の文化、歴史を連携させた「シン(新、進、深…)　観光」ルートの開発。秋田市の魅力を伝えるコンテンツづくりとして、ガイドツアーや体験プログラムを提供することで、単なる「名所見物」「グルメ、温泉」「物見遊山」的なものだけにとどまることなく、訪れる人々により深い印象を与えることができるのではないか。 最後に 私たちの身近にある地域文化資源、つまり「生活文化遺産(文化財)」は、私たち自身のアイデンティティを形づくり、結束を強化する貴重な宝です。 しかし、これまでの生活の中で「当たり前に存在した」私たちの暮らしを映し出したモノが今、急速に姿を消しつつあります。失われてしまった後で、それが貴重な「宝もの」だったことに気づくのでは遅すぎる、と思うのです。 文化芸術振興基本法に基づき、文化振興に向けた条例が制定され、市民の積極的な参画が促されている中で、住民が直接振興計画に意見を反映できるカジュアルな「ワークショップ」や市民を中心とした「プロジェクトチーム」設置など、開かれた参加や協力を得て、秋田市の文化振興のグランドデザインを描いていただきたいと切に願います。 強固な文化力は、地域が自らの魅力を再発見し、育むことから始まります。 ▽地域文化の価値を見つけ出し、保全し、次世代へと繋げる役割はあくまで市民にあり、▽共に育む文化の力で地域社会は豊かになる、ということを最後に強く申し上げたいと思います。	